

人文学フロンティア2007・岡山大学文学部 《企画書》

〈趣旨〉近年では、人間の認識や事物の分析についての方法的・技術的革新が著しい。また、複雑化する社会のなかで現実に生起する諸問題に実践的に対応できる知の創造が求められるようになってきている。こうした状況をうけて、学問におけるパラダイム転換が各分野で進んでおり、人文学も例外ではなく、その渦のなかにある。

岡山大学文学部では、そうした状況に積極的にコミットすることを目指して、「中期計画 2004～2009」に「日本文化の固有性」「空間情報科学を用いた歴史学・考古学をはじめとする人文科学研究の推進」「ジェンダーの多様性・普遍性・可変性の分析およびジェンダー教育プログラムの立案を含む学際的研究」の3つの研究課題を掲げ、プロジェクト研究として学部をあげて取り組んできた。このうち後者の2つの課題については、2007年度に最終年度を迎えることから、その成果を集約するために企画する。

〈目的〉3つの研究課題ごとに、これまでの研究成果を集約するとともに、それを一般市民や学生・高校生などに普及する。とりわけ、教育活動との連動や社会連携活動としての側面を重視する。

アクション1・デジタル歴史考古学

〈趣旨〉最近進歩の著しいコンピュータ技術やインターネットなどを活用して、新しい研究方法や資料操作の技術が開発されている。それに基づく研究成果の一端を、広く市民に知らせる。同時に、成果の普及のあり方について、博物館・教育委員会（文化財）の担当者や市民とともに考える。

〈主催〉岡山大学文学部・岡山デジタルミュージアム

〈対象・人数〉文化財行政担当者・学生・市民など、約80人

〈場所〉岡山デジタルミュージアム講義室

〈日程〉6月2日（土）「服部郷図の謎を解く」 新納 泉（岡山大学文学部教授）
6月9日（土）「シミュレーションがひらく古代史—人口・災害・集落—」
今津勝紀（岡山大学文学部准教授）
6月16日（土）「衛星画像で見る中国古代都市」
佐川英治（岡山大学文学部准教授）
6月24日（日）「画像で歩く岡山城下町」 倉地克直（岡山大学文学部教授）
乗岡 実（岡山市教育委員会）

アクション2・ジェンダー教育ってなに？

Part 1 ジェンダーを考えるこんな授業をしています！

〈趣旨〉ジェンダーに関する研究の成果を大学での教育カリキュラムに生かす試みの一部を、将来文学部で学ぶ希望を持つ高校生に対して、わかりやすく紹介する。かつて実施した公開シンポジウム「大学におけるジェンダー教育はどうあるべきか」においても、高校・大学・一般社会の間の連携の必要性を指摘する声が聞かれたため、今回はとくに大学入学前の高校生に対して、大学での学びの可能性を示唆できるような企画を立てた。

〈日時〉2007年8月3日（金）13:30～15:30

〈対象〉岡山大学オープンキャンパスに参加する高校生・教員・保護者

〈場所〉岡山大学文学部講義棟26番教室

〈内容〉 ①文学部学生に対する「ジェンダー意識に関するアンケート調査」の結果紹介
②「先史時代の女と男～考古学から見たジェンダー」 松本直子
③「女性<美>の表象とジェンダー」 龍野有子
④岡大文学部で学べるジェンダー関係講義の紹介

Part 2 〈内容検討中〉

アクション3・連続シンポジウム・揺らぎのなかの日本文化 10月13日～10月27日

〈対象〉一般市民・学生

Part 1 「日本の原像」

〈趣旨〉世界の各地域の文化は、それぞれに固有性と普遍性を持ち、相互に影響・交流し合いながら存在し展開してきた。ところが、近代の国民国家においては国民文化の民族性がことさらに強調され、それがあたかも先史・有史以来脈々と持続しているかのように主張された。はたしてそうだろうか。そもそも、日本はいつごろ、どのようなものとして成立したのだろうか。本企画では、日本列島上で展開したさまざまな文化事象を考古学と歴史学との最新の成果を踏まえて検討し、日本文化の固有性と普遍性について歴史的に深めてみたい。

〈日時〉2007年10月13日（土）13:00～17:00

〈場所〉 岡山大学 50 周年記念会館多目的ホール

〈内容〉 1 部 講演 1 平川 南 (国立歴史民俗博物館館長)
講演 2 松木武彦 (岡山大学文学部准教授)
2 部 コメント 今津勝紀 (岡山大学文学部准教授)
鼎談・日本の誕生／日本の原像…司会・新納 泉 (岡山大学文学部教授)

Part 2 「日本における怪異と美意識」

〈趣旨〉 現在、怪異なもの (グロテスクなもの) は若者たちの間で大変なブームを呼んでいるようである。小説では京極夏彦、映画、漫画における怪奇もの、そしてアートの世界に於けるさまざまなグロテスクなイメージ等、サブカルチャーから、ハイアートに至るまで、これまで文化の周辺に位置していた怪異なイメージが、その主流を形成し始めた観がある。本シンポジウムでは、怪異なイメージが、日本の伝統的な芸術のなかで、どのような意味を持っていたかを、日本の伝統芸術に強い影響力をもってきた中国に於ける怪異の表現との相違に配慮しつつ考察し、従来日本文化の特性とされてきた、「型」、「わび」、「さび」とは異なる日本文化の水脈を模索することを目的としている。

〈日時〉 2007 年 10 月 20 日 (土) 13:00 ~ 17:00

〈場所〉 文法経済学部 20 番講義室

〈パネリスト〉 坂部 恵 (東大名誉教授 哲学)・松岡心平 (東大 国文学・能)
山本秀樹 (岡大 国文学)・岡本不二明 (岡大 中国文学)
〈コメンテーター〉 西村清和 (東大 美学)・下定雅弘 (岡大 中国文学)
橘 英範 (岡大 中国文学)・田仲洋己 (岡大 国文学)
〈司会〉 山口和子 (岡大 美学)

Part 3 「外から見る日本の美術」

〈日時〉 2007 年 10 月 27 日 (土) 13:00 ~ 17:00

〈場所〉 文法経済学部 20 番講義室

〈パネリスト〉 若桑みどり (川村学園大学教授)・鈴木まどか (倉敷芸術科学大学教授)
宮崎法子 (実践女子大学教授)・秋元雄史 (金沢 21 世紀美術館館長)
伊藤大輔 (名古屋大学准教授)・鐸木道剛 (岡山大学准教授)